

五雲会

平成三十年七月十四日(土) 正午始

演目の解説

次回予告

平成三十年九月十五日(土) 正午始

経 シテ金森 隆晋

ワキ 村瀬 提

大鼓 柿原 孝則
小鼓 清水 和音
笛 杉 信太郎

後見 金森 秀祥 登

地謡

今井 泰基
金野 良充
佐野 玄宜
高橋 渡邊 茂人
小倉 健太郎
小林 晋也

棒 縛

山本 則孝

山本 凛太郎
山本 泰太郎

へ 休憩 十五分

半 シテ藪 克徳

藪 克徳

ワキ 森 常太郎

大鼓 柿原 弘和
小鼓 鳥山 直也
笛 小野寺 竜一

能「半藪」(はしとみ)

都北山紫野の雲林院に住む僧が立花供養を営むと、白い花を捧げ、僧の問いに答えて夕顔の花の名と、昔光源氏が訪ねた五条辺り夕顔の事を語り、夕顔の精である夕顔の家の陰に消え、夕顔の精が教えるまま五条辺りに出向くと、夕顔の蔭より女が現れ、光源氏が最初に訪れた日、家来の惟光に香を焚き締め、夕顔の精を添えて差し出した思い出を語り、美しい舞を舞って、夜明けの訪れの前、夕顔の内に消えて行きます。

鶉 シテ大友 順

鶉 順

へ 休憩 十五分

後見 今井 泰行
高橋 憲正
東川 尚史

地謡

朝倉 大輔
川瀬 淳司
當山 雄二
亀井 和久
東川 朝倉 崇樹
朝倉 内俊 生
朝倉 俊樹 生

能「鶉飼」(うかい)

安房の清澄から来た二人の僧は、甲斐の国石和川にさしかかり、村人に宿を借りようとし、泊ります。そこへ松明をかざし、無人の堂に泊ります。老人は石和川の折の事を話すと、その鶉飼いが死んだ事を告げ、詳しい経緯を語り、自らその霊であると明かし、甲斐を頼んで鶉を使う様を見せて消えて行きます。僧が甲斐の功徳を讃えて去って行きます。

終演予定 午後四時頃

◎入場料 一般 / 5,000円
学生 / 2,500円

◎会場 宝生能楽堂

JR水道橋駅東口 徒歩3分
都営地下鉄三田線 水道橋駅 A1出口 徒歩1分

☎113-0033
東京都文京区本郷1-5-9



融	班	岩
女	高橋 憲正	船 川瀬 隆士
小倉健太郎		